

Associé

2021.11

社会福祉法人京都福祉サービス協会

情報誌 アソシエ No.19

来春、待ってるよ！ 2021 内定式

10月1日(金)、総合福祉施設修徳4階にて、2022年度の新卒採用予定者の内定式を行いました。今年は、9名が参加。内定式の後には、懇親会で交流もしました。来春、協会の仲間になる日を心待ちにしています。

内定式

浅野信之理事長は、訓示で我々がご利用者、ご家族、地域のみなさんの笑顔を大きな糧にして日々業務を行っていること、来春、内定者のみなさんが仲間となり、共に前進できる日を楽しみにしていると話されました。

列席した幹部職員の紹介の際には、それぞれが一言ずつ歓迎と期待の言葉を述べました。最後は、内定者と幹部職員の全員で記念撮影。少し緊張もほぐれ、笑みがこぼれました。

懇親会／先輩たちからの話と内定者同士の座談会

その後は、ガラリと雰囲気も変わり懇親会に突入。まずは、職員や内定者同士で面識を作るため、予め用意しておいた自己紹介カードの交換を行いました。名前と顔を一致させ、これから同期として親睦を深めていくための準備です。

この懇親会には、魅力発信チーム(次頁参照)の協力で、施設の若手職員2名が参加。1名は、入職後デイサービスや特養でのケアワーカー、地域包括支援センターの社会福祉士として勤務した後、現在は高齢者福祉施設紫野の生活相談員として勤務している山崎陽介さん。入職後に初任者研修を受けて以降、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を取得するなど、成長し続けてきた職員です。

もう1名は、管理栄養士の資格を持ちながら、デイサービスでケアワーカーとして1年半の勤務の後、現在、その経験を活

かし念願の管理栄養士として総合福祉施設塔南の園で勤務している谷口祐希さん。2人には、入職後に成長の糧にしたこと、嬉しかったことや転機になった出来事などを語ってもらいました。

高齢者福祉施設紫野の河本歩美施設長は、協会歴28年の職業生活を、入職当時の写真を見せながら振り返り。内定者のみなさんとのジェネレーションギャップに苦笑い。

職員の話には、ご利用者への思いや学びがたくさん盛り込まれており、内定者のみなさんも興味深く聞き入っていました。

その後は、2グループに分かれて座談会。初めは緊張していた内定者のみなさんでしたが、話をしていくなかで意外な共通点が見つかり、驚いたり嬉しくなったり。あっという間に時間がたったと思うほど楽しい時間でした。

これからの予定

今回の内定式までに、オンラインでの懇親会や月1回の地域共生カフェで顔を合わせた内定者もおられました。いざ対面となるとやはり、打ち解けやすさが違っていました。入職までにあと2回程の懇親会を行う予定ですが、次回までに、仲間ももっと増えているかもしれません。コロナ禍の状況から対面が難しくなる可能性もありますが、極力対面で実施できるように企画していきたいと思います。内定者の同期としての絆がどんどん強くなり、来春へ期待が高まるよう、願いを込めて！



左上：理事長が内定証書を交付
 左下：自己紹介カードを交換
 右上：若手の先輩職員が自身の経験に基づいた話で激励
 右下：河本歩美紫野施設長が若手職員頃の思い出などを語る

魅力発信チーム

活動の軌跡

みなさんは、魅力発信チームの活動をご存じでしょうか。施設部門では、各施設から数名の若手職員が推薦され、協会の採用活動への協力や、内外へ協会の魅力を発信する活動を行っています。これまでの取組から今後の展望まで、ご紹介いたします。

☆2016年度☆

新卒学生の採用について、「学生に寄り添った活動ができないか」「学生のニーズに合わせた採用活動を展開するにはどうしたらよいのか」と考えた時期。学生と同じ目線で、想いや悩みを身近に感じることのできる若手職員の意見を取り入れてみてはどうか、との声が上がりました。京都府内にある社会福祉法人のなかで、若手チームを発足し、魅力を効果的にアピールしている法人の活動を参考にしながら、2016年4月に「採用チーム」が発足。

メンバーが、「PR戦略・企画」、「広報用ツール・グッズ考案」、「内定者フォロー」の3つのグループに分かれ、それぞれの内容を検討。採用グッズとしてチロルチョコ、絆創膏などが採用されました。



2017年度は就職フェアのブース用の椅子カバーも製作

☆2018年度☆

「採用チーム」から「魅力発信チーム」に名称を変更。10月には、魅力発信チームメンバーという位置づけを明確にすべく、辞令も出され、これまでの活動体制と方法を見直しました。この年から、コンサルタントとして正式に（株）エイデル研究所の熊谷氏が加わり、広報研修「魅力を発見する」について考えました。「成長とは何かを定義する」を考えるワークでは、お互いが向き合うことで自分にも周りにも影響を与え、それによって一緒にやる気になってくれる仲間と出会える、助け合える環境をつくり、みんなと一緒に諦めず、前を向いて進む！という内容が出ました。

9月には、メンバーが、それぞれ勤務する施設の魅力を発信するプレゼンを行い、自分の施設の魅力を再確認する機会にもなりました。



打ち上げの様子

☆2019年度☆

施設部門発行の情報誌「together plus+」で、連続企画「施設の仲間たち」を担当。魅力発信チームのメンバーが各施設の職員を取材し、その人の魅力を探り出し、発信しました。取材の段取りから、インタビュー、写真撮影、編集をすべて行い、決められた文字数で情報を発信する力も身につきました。

11月には新しいメンバーを迎え、施設本部山本部長主催の演劇ワークショップを開催。演劇を通じて自分のこと、お互いのことを知るきっかけとなりました。「各施設に実習に来る学生やインターンシップ生に自分たちは何ができるか」、「働くことの意味や理由、魅力を掘り下げる」という研修も行い、「私たちはどうして京都福祉サービス協会で働いているのか」を考えました。



ワークショップの様子

☆2020年度☆

新型コロナウイルス感染症の影響で対面での活動が困難に。日程を変更したりオンラインを活用しながら、チーム活動を続けました。この年の研修テーマは「働く魅力を見える化する」。

どのように見える化し、魅せる化するのか、話し合い、またどのようにすれば「やめない職場」をつくることのできるのか、についても意見を出し合いました。自分にできることと、上司や協会への提案を出し合いました。

新しいノベルティグッズは、メンバーが中心となって検討。人気のあったジュートバックを作成しました。普段使いができるような控えめなデザインにもこだわり、学生さんからは、「かわいい」「使いやすい」と大変好評でした。



2020年度製作 チロルチョコ



ノベルティバッグ

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2016年度製作 チロルチョコ



2016年度作成 採用パンフレット



「採用チーム」最初の会議

☆2017年度☆

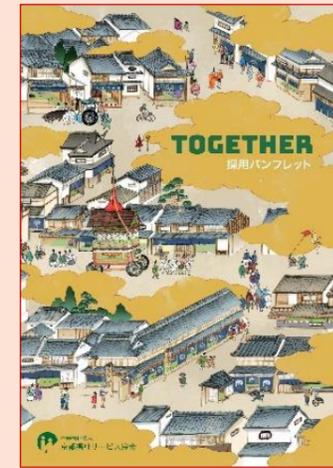
前年度の活動から引き続き、3つのグループ活動を実施。「PR戦略・企画」グループは就職フェアなどで使用する椅子カバーの作成、「広報用ツール・グッズ考案」グループはノベルティグッズや広報誌「Together」の作成、「内定者フォロー」グループは8月から2か月おきに行った懇親会の企画や当日の運営を担当しました。11月にはゲストに（株）エイデル研究所の熊谷氏を迎え、勉強会を開催。キャッチコピーを考え、なぜ広報をするのか、誰に何を伝えるのかという内容を学び、働く現状、やりがい、悩みなどを話し合いました。大学や専門学校とのつながりのなかで、メンバーが母校で話をする機会も増えました。



2017年度作成 採用パンフレット



採用情報誌「Together」
2017年～2019年3月発行



2019年作成 採用パンフレット

☆2021年度☆

今年から居宅部門と一緒に採用活動を行いました。「やめない職場」をつくるためには、協会の魅力を内外に伝えていくことが重要ということで、2つのグループに分かれて活動することになりました。一つは「広報企画」、もう一つは「採用活動」。「広報企画」は協会内外に魅力をさまざまな方法を用いて発信、「採用活動」は主に新卒採用活動の入口から入職までをフォローしていきます。11月には、いよいよ2つのグループに分かれて活動が始まります。今年こそは、SNSにもチャレンジしたいと考えています。



オンライン研修の様子

西院老人 DSC 職員／厚労省「認知症希望大使」

下坂厚の写真日記 ①



今号から隔月でスタートするこの企画では、協会職員の**下坂厚**さんが自ら撮って選んだ、お勤めの写真をご紹介します。**素敵な写真を愉しんでください。**



西院デイサービスの下坂です。
どうぞよろしくお願い致します！



【南禅寺 天授庵】

美しい紅葉を観ていると心が落ち着きます。



出町の商店街にある元気な果物屋さん。
安いから、ついつい買いすぎてしまいます！

職場リレー
エッセイ②THEME／再生
ナイトケアセンター南

ナイトケアセンターは、地域密着型事業でありながらサービス提供地域が広域にわたっていることから、事業運営の効率化が急務となっています。2018年度にはオペレーション機能をナイトケアセンター南1か所に集約し、小川、山科については、それぞれ夜間訪問介護に専念できるケアステーションに再編され、再編以降も管理運営体制や各職種の役割の見直しを継続し、現在に至っています。

ナイトケアセンターの事業は、夜間帯の定期訪問と通報があればすぐに駆け付ける随時訪問を中心に事業を展開しています。ここではそのなかでも訪問介護の専門職として事業を支えている「夜間在宅介護員」についての取組をご紹介します。

従来、夜間在宅介護員は、夜間帯は定期・随時の訪問業務、昼間帯は随時訪問に加え、ご利用者のモニタリングや新規相談等の業務を兼務していましたが、今年度当初より、昼間帯のモニタリング等の兼務を解消し、小川、山科、南事務所の訪問介護員としてヘルパー業務に就くことで、夜間帯、昼間帯を通じて訪問介護業務に特化した役割を担うこととなりました。

夜間在宅介護員の多くは協会ヘルパー出身者ですが、今は巡回型の夜間帯業務に慣れ、滞在型を主とする昼間帯業務から久しく遠のいていたことから、戸惑いがあったのも事実です。

ただ、それ以上に各事務所のスタッフの協力、支えがあり、日に日に当時の感覚を取り戻し、自信をもって各種業務に取り組めるようになってきています。もちろん、上手くいくことばかりではありませんが、介護技術研修やヘルパー会議に参加する機会も増え、新たな刺激を受けることで各自向上心が生まれ、やりがいにもつながっています。



夜勤と日勤を繰り返す変則勤務ということもあり、体調管理に十分留意するとともに、所内連携を十分に図りながら今後とも、ご利用者の方々に24時間365日、安心してご自宅まで過ごしていただけるサービス提供を目指してまいります。

2010年のナイトケアセンター開所以来、面接相談員やオペレーター、事務員などすべてのスタッフが切れ目なく奮闘し、ご利用者の夜間の安心をつないできたことは私たちの誇りでもあります。

一方で、事業運営に関しては各種環境の変化により、常に変化や再生が求められます。それを解決するナイトケアセンター「再生」の重要な役割の一翼を担うのが「夜間在宅介護員」でもあります。

